令和7年度第1回有馬富士公園運営協議会（5月 29 日開催） 次第

１. 開　会
　委員、関係者の紹介
　来園者数の報告

２. 報告事項
　⑴ あそびの王国における日よけ・ベンチ設置について
　⑵ 園内工事（水辺の生態園・旧菖蒲園、林の生態園）ついて
　⑶ 自然共生サイト登録申請について

３. 協議事項
　⑴ これまでの活動を踏まえた有馬富士公園の管理運営の方向性について

令和7年度　第1回　有馬富士公園運営協議会　委員等一覧

区分	委員氏名	所属・役職名
学識経験者	赤澤　宏樹	兵庫県立人と自然の博物館 次長
		兵庫県立大学 自然・環境科学研究所　教授
	八木　剛	兵庫県立人と自然の博物館 事業推進部長
	福本　優	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部　研究員
住民委員	石田　武士	夢プログラムクルー
	加瀬部　久司	夢プログラムクルー
	杉橋　和実	夢プログラムクルー
	出口　直彦	一般利用者
	森山　智美	夢プログラムクルー
	吉田　滋弘	夢プログラムクルー
行政関係	首藤　健一	兵庫県　公園緑地課長
	志茂　大輔 （代理：浦井　勇典）	兵庫県　阪神北県民局　宝塚土木事務所長 （同　所長補佐 兼 管理第１課長）
	上月　研一	三田市　産業振興部　まちのブランド観光課長
【関係者】		
兵庫県	藤田　朝彦	兵庫県　まちづくり部　公園緑地課　副課長兼企画管理班長
	辻村　茉莉江	兵庫県　まちづくり部　公園緑地課　企画管理班　主任
	的場　智久	兵庫県　まちづくり部　公園緑地課　企画管理班　副主任
	山﨑　弘美	兵庫県　まちづくり部　公園緑地課　整備班　副主任
	土肥　正克	兵庫県　阪神北県民局　宝塚土木事務所　三田業務所　道路公園担当課長
	入江　大輝	兵庫県　阪神北県民局　宝塚土木事務所　三田業務所　副主任
県園芸・公園協会	中西　宗一	公益財団法人兵庫県園芸・公園協会　公園支援課　専門員
	大西　由里子	公益財団法人兵庫県園芸・公園協会　公園支援課　主任
人と自然の博物館	吉田　峰規	三田市有馬富士公園自然学習センター　コミュニケーター
事務局	松本　貴史	有馬富士公園管理事務所　所長
	尾上　豊	有馬富士公園管理事務所　参事
	田中　克朋	有馬富士公園管理事務所　課長
	川原　弘	有馬富士公園管理事務所　課長補佐

１　開会（15:00）

（**赤澤会長**）入園者数は人口減に伴いおそらく減る。より多く集めることを大きな目標とせず、どうすれば楽しい公園になるか、良い公園にするには具体的にどうするか。その結果、入園者数が増えればうれしいことである。引き続きいろんな意見を聞き、少しずつ公園の目標像を固める真ん中部分のワークショップをして、主に具体的な活動場所のゾーンごとの大きな括りを見ながら、皆さんの意見をまとめていきたい。

２　報告事項

⑴あそびの王国における日よけ・ベンチ設置について

公園緑地課から前回の協議会での意見を踏まえ、当時の設計者に意見を伺った旨を報告。今後はいただいた意見を踏まえて整備する予定。

（**赤澤会長**）デザインは広い意味のデザインで、形や色だけでなくどこに置くか、公園全体の構成のデザインも含めて進められている。設計者の意見を十分踏まえていただきたい。

⑵園内工事（水辺の生態園・旧菖蒲園、林の生態園）について

宝塚土木事務所から報告事項について内容説明

（**赤澤会長**）旧菖蒲園では来年は予算がつくことを望む。林の生態園ではこれまで指摘があった木をできるだけ残すように修正され、少しの遅れはあるものの工事は進められている。

⑶自然共生サイト登録申請について

吉田住民委員から報告事項について内容説明

（**首藤課長**）県でも尼崎の森中央緑地やあわじ石の寝屋緑地が登録されており、今後、有馬富士公園で展開していくことも、この公園の特性などを鑑みるとありうる。申請には少し複雑な点もあるので、次回、これらの事例を提示しながら、この公園ではどのような課題があるかも併せて議論していきたい。

（**赤澤会長**）全国の認定状況を見ると、場所のみで言えば県立公園は全部対象になりそうだが、どんな取組をしてどんな目標にするかが認定の要点になると思う。大学のキャンパス丸ごとや屋上庭園など、おおよそ良い場所であれば認定されている感じである。

（**加瀬部委員**）これは公園全体が対象ということになるのか。これから検討して、公園全体になればそれに越したことはないとの認識でよいか。

（**吉田委員**）これからエリアをはっきりさせていくことになると思う。

（**八木委員**）環境省の取組であるが、補助金などは一切出ないところ、言われる

ばかりで皆さんの現場が疲弊しないように、公園本来の目的と合わせて検討していただきたい。登録する気になればいくらでもできるように思う。
（首藤課長）その点も課題で、登録するにもある程度、調査は必要でお金がいる。環境省はあまり予算をもっておらず支援対象も少なかったりする。次回、資金面も含めて説明したい。
（赤澤会長）認定のメリットとして、民間は株主などから投資や融資を受けやすくなることが挙げられている。公共施設で言うと、県はもっといろんな所で寄附行為を受けたいが、特にここという理由にもなり得るかもしれない。ただ、融資などを受けようとする政策がついてこなければならず、その点も含めてトータルに考えていけばよいと思う。

３　協議事項
⑴ これまでの活動を踏まえた有馬富士公園の管理運営の方向性について
〇公園緑地課からワークショップの趣旨説明
（赤澤会長）資料に「テーマ、ゾーン、プロジェクトの関係性」とあるが、私なりに簡単に振り返ると、最終的にはテーマのような大きなことも考えればよく、本日は主にどんなゾーンにしたいかの意見をいただきたい。ゾーンの名前は何が相応しいとか、こんなプロジェクトもできるようにしたいなどの意見でも結構である。ゾーンとプロジェクトを行き来しながら意見が多く出ればとの趣旨と理解している。
　それでは、３つの班の進行役に沿ってワークショップを進めていきたい。

〇ワークショップ後の意見発表
（Ａ班・加瀬部委員）全体としては、各ゾーンの話の前に、ゾーンという名前はできればとりたいというのが共通意見である。その方が利用者にはわかりやすい。ゾーンごとに出た意見で特徴的なことは次のとおり。
「①子育て拠点・地域連携活動」は、内容的には子供と親が一緒に遊べるような所で、森に入って子どもはカズラ採りを楽しみ、それを使ってお母さんがクリスマスのリースを作ったりできる。
「③子育て活動」は、鬼の遊び場の方がわかりやすい。
「④環境学習拠点」は、火を焚ける場所があればよい。例えば森を整備して出た廃材を使って焚き火をして、火を使うことで防災や安全の意識も醸成できる。
「⑤水辺生態保全・活動体験」は、できれば水に入って遊べる体験ができればよい。
「⑥里山保全・活動」は、伐採した木を無料配布したり、チップにして置いておき、カブトムシなど昆虫採集することにも活用できる。

「⑦景観保全」は、福島大池の西側エリアを南北に大きく分けると、南側は遊びのプレイパークとして、子どもたちが探検、冒険できる。北と南の間に新三田方面に行く道があり整備すればよい。
「⑧休養ゾーン」は、風のミュージアムがメインになっているが、広い芝生を活かすこと。このエリアは夜 10 時頃まで入れるので、例えばドッグラン、サイクリング、星空を眺めることにも活用できる。ここは風にちなんだネーミングがよい。また、駐車場が離れているので、芝生のエリア近くに増設できればもっと利用しやすい。また、ダムの方に行けばフラットになりサイクリングロードとのつながりも可能である。

（Ｂ班・山﨑副主任）８つのゾーンを５つに集約して発信しやすい形にまとめて考え、次の意見が出た。
「①子育て拠点・地域連携活動」と「②レクリエーション」は合体させて、パークセンター付近には、この公園の特色、季節の特色を見せるものを作り、皆が見える入口に配置する。また、夢プロがかなり高齢化してきているので、部活を誘致するなどして若い世代が来て、最終的に夢プロの一員になってもらいたい。
「②レクリエーション」は、夏の暑い時期に水で遊ぶエリアが少なく、ガーデン階段の方は低い位置に下がっていくのでなかなか来ない。ここをレクリエーションエリアとつなげて一体的に考えていく。
「③子育て活動」の名前は、遊びのエリアではないか。
「④環境学習拠点」と「⑤水辺の生態保全・活動体験」は分けられているが、どちらも環境学習に関するエリアで一体的に考える。草地・林・水辺の生態園といった多様な環境学習ができるエリアとして位置付ければよい。この環境学習のエリアを拠点に、外からいろんな人に来てもらう主要なエリアになればとの思いを込めて一つのゾーンとして使う。
「⑥里山保全・活動」には、在来種の保護活動もあるので追加してほしい。
「⑦景観保全」は、北の方にナツツバキ個体群があり、年に一回ほど管理されているとの話もある。北の方を中心に生育エリアとして掲げる。
（福本委員）①と②、④と⑤を合体させた方がよい。①と②は当初、ガーデン階段の設計時に福島大池まで行ってほしいとの思いがあったであろうから、ライトユーザーでもにぎわいを感じて下まで歩いていけることをしっかり推せればよい。また、④と⑤を合体して、多様な環境学習を有馬富士公園の一つの売りとして打ち出しがしっかりできる方がよい。

（Ｃ班・石田委員）この班でも同じような意見が出ていた。
「①子育て拠点・地域連携活動」と「②レクリエーション」をまとめることは、

パークセンターの活用方法が違う点があり、子育てではなく地域連携拠点としてパークセンターという名前にすればどうか。小さい子供たちには下の調整池のところまでにすれば活用しやすく、もう少し大きくなると、「④環境学習拠点」の中に入って探検などが楽しめることを推していけばどうか。
「④環境学習拠点」を少し広げ、パークセンターからあそびの王国につなげて芝生のところも入れて遊んでもよい。自然が体験できる場所としてもっと明確にしてもよい。なお、環境学習拠点の「学習」という言葉が堅く感じるので、探検や冒険など明るい名前を付ければよい。
「③子育て活動」のあそびの王国では、遊具で遊ぶ来園者が多いが、実は遊具以外にもっと自然で遊べる場所が奥の芝生の所にあることもわかるようになればよい。
「⑥里山保全・活動」は、どちらかと言えば大人の里山活動、小さい子供が活動するゾーン、小中学生がワクワクしながら活動するゾーン、といった分け方がよい。
「⑦景観保全」は、いろんな意見が出た。奥まで一本道を作り、人が入れるようにする、逆にそれを作ると維持が大変なので、あえて何もせず人を入れないようにするのがよいのか。また、途中で蛍がいてとてもきれいな場所がある。せっかくそのような情報があるのなら、もっと出して有効活用できればよい。この公園は福島大池やガーデン階段の石など本当に古い歴史があるので、それを知ることができればもっと面白い。

〇再議論
（赤澤会長）やはり皆さんは常日頃から公園に関わっているので、とても具体的なアイデアが出た。ワークショップの意図どおり、それぞれのゾーンを行き来しながら、同じ思いがよくわかるワークショップであった。最後に、お互いの意見を聞いた上での意見をいただきたい。
（Ｂ班・福本委員）先ほど緑の所に道を入れて整備してはどうかとの意見があった。Ｂ班では有馬富士公園は今まで自然を大事にしてきており、緑の所はしっかり景観保全すればよいとの意見が出た。現状、里山大学の学習林は放置状態になっているので、もっと保全を明確にしてはどうかということも反対の意見として出た。
（Ａ班・赤澤会長）同じような話があり、「⑦景観保全」が比較的穏やかな地形なので、子どもがもっと入って遊べるように整備してもよいのでは、里山を整備するにしても、遊べる虫が捕れるようにすればよいのではと。ここは横のレクリエーションゾーンとのつながりが大事との話もあり、ゾーン分けの方法がそれぞれのグループであることがわかった。

（Ａ班・吉田ｺﾐｭﾆｹｰﾀｰ）「④環境学習拠点」の部分、多目的エリアの線が花の道まで被っていないが、意外とこの辺のエリアが重要である。下のレクリエーションゾーンまで行くと、幼稚園児では時間がかかり下れない。１時間以内で体験をしようと思うと、花の道の草を伸ばして虫捕りができるような仕方、実際にアップダウンが多い公園なので、それを見て使えるような方法を考えることができればと思った。

（Ａ班・赤澤会長）今日はプロジェクトとゾーンを行ったり来たりしたが、さらにどんなテーマにするかも同じことになってくると思う。子育ての場所もすごく元気な小六くらいの子に向けてではなく、やはり高低差などをきちんと配慮しないといけない。小さなお子さん連れにも来てほしいというのがあり、何ができるのかだけではなく、どう使い勝手がよいのかをゾーニングすることも入れた方が公園で何ができるのかが伝わりやすいのかもしれない。

（Ｂ班・吉田委員）中高生に話を聞くと、自分の足でなかなか来られず、交通手段が悪いということも言われていて、名案があればよいが過去に失敗もしている。バス会社にも迷惑をかけたことがある。今思いついたのは、新三田から歩いてくる道路沿いにあと何メートル、もう少し頑張ろうという看板を足せば少しは歩く気がするのではないかと思う。

（Ａ班・赤澤会長）「⑦景観保全」の岩盤がある所から新三田まで抜けていく軽登山ルートが使われているとの話があった。

（Ｂ班・吉田委員）そこは落石があって危ないから止めようという話も出た経緯がある。

（Ａ班・赤澤会長）他のエリアでも、風のミュージアムの所では、青野ダムの方へ自転車で回遊するルートとつながっている。そのような所と合わせると利用者が多くなる。パークセンター側で言うと軽登山ルートでもし増えたら、ここから新三田まで行って、そこでバスに乗って車を停めている公園にまた戻ってくるようなことがあるらしい。それでもっと利用者が増えたらバスの便が増えるのではといったアイデアも出てくる。

ちなみに、これからゾーンを考える時に、こんな情報も地図に落とせばもっとアイデアが出る、もっと考え方を整理できるということを言っていただきたい。

（Ｂ班・福本委員）三田市のブランド観光課の公園行政とは違う視点での意見をいただき、環境学習の話が出た。これは楽しい体験なので、それそのものがいわゆるお金を落とす観光とは違うが、観光とリンクする話がある。例えば百円でもタダでも週末に来るのが楽しくなると、観光との連携ができる。

三田市は秋にまち博のイベントがあり、立派なパンフレットを作って発信している。その発信の仕方の一つに、有馬富士公園で体験型の環境学習をするのは観光にもつながり、市と連携することも考えられるとの話も出た。

（Ａ班・赤澤会長）薪が出る話から防災の話があった。薪がなくても日常の火が起こせるというのが、つまり防災とアウトドアにおいて信用性があり、その真ん中のサバイバルのような言葉で少しワクワク感を出していくと、環境学習という言葉よりもっと行きたくなったりするのではとのアイデアがあった。
（Ａ班・辻村主任）「⑥里山保全・活動」や「⑦景観保全」で木を伐る作業が結構あるが、これを他のゾーンで燃やすだけでなく活用することで、そこに虫が勝手にわいて虫捕りできるとの話があった。そのようなゾーンを越えた活動も今後またどこかに落とし込んでいけたらと思う。
（赤澤会長）有意義なワークショップではなかったかと思う。次回に向けて公園緑地課でとりまとめをよろしくお願いする。

４　閉会（17:00）